

平成26年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	八雲町児童交流事業						担当部	教育委員会事務局		
	会計区分	一般会計			事業類型	一般		担当課	教育総務課		
	事業期間	昭和58年度			～	平成30年度以降		担当係	庶務係		
	総合計画 分野別計画	主目的	3 教育・子育て		12 学校教育		3 教育力を向上し、調和のとれた人格形成を支援します				
		副目的									
	予算区分	款	10	項	1	目	3	大	10	中	1
	根拠法令・個別計画										
	目的 (対象をどの様な状態にするのか)	小牧市と歴史的つながりの深い八雲町児童との交流学习を通じ、学童期の貴重な体験学習のひとつとする。									
	内容 (手段)	<p>夏季の八雲町派遣事業、冬季の小牧市受入事業を行う。夏季派遣事業は、洋上セミナー2泊、民泊1泊、おぼこ荘宿泊2泊の5泊6日間で体験学習活動を中心としている。冬季受入事業では民泊2泊、小牧勤労センター2泊の4泊5日間に、小牧の紹介をするなどの活動を実施している。</p> <p>※募集児童数は、平成23年度に小学6年生40名から32名に減員した。          ※平成23年度は台風による往路のフェリーが欠航となる緊急事態により、往路も航空機に変更し、洋上セミナーのない3泊4日で実施した。          ※宿泊先は小牧荘の廃止に伴い、平成24年度からおぼこ荘へ変更した。          ※平成25年度は、八雲町での募集が振るわなかったことにより、八雲町での民泊を中止し、両市町の児童で町内施設での宿泊を行った。</p> <p>事務局は、派遣児童の児童募集、選考委員会・交流委員会・学習会等の開催、学校・引率教諭・八雲町との連絡調整を行っている。          近年、応募者が少なく定員に満たない年もあることから、平成26年度の募集から、募集対象や方法を見直した。          参加者にはフェリー運賃等一部の費用を自己負担してもらっている。</p> <p>《直接経費内訳》(平成25年度決算)          ・八雲町児童交流事業委託料 2,629,600円          (夏季事業派遣経費・需用費等、冬季事業宿泊経費・交流事業費・需用費)</p> <p>《直接経費内訳》(平成26年度予算)          ・八雲町児童交流事業委託料 4,293,000円          (夏季事業派遣経費・需用費等、冬季事業宿泊経費・交流事業費・需用費)</p>									
	受益者負担	有	自己負担額(平成25年度) 28,200円(フェリー代7,200円、航空賃19,800円、冬の交流事業保護者食事代1,200円)								

		単位	H23決算額	H24決算額	H25決算額	H26予算額		
コスト	費用	直接経費	千円	4,626	3,401	2,629	4,293	
		正職員	従事者数	人	0.40	0.40	0.40	0.40
			人件費	千円	2,104	2,104	2,104	2,104
		その他職員	従事者数	人	0.00	0.00	0.00	0.00
			人件費	千円	0	0	0	0
		費用合計	千円	6,730	5,505	4,733	6,397	
対前年比	%			81.7	85.9	135.1		
コスト	財源	一般財源	千円	5,792	4,690	4,085	5,415	
		国・県支出金	千円	0	0	0	0	
		その他財源	千円	938	815	648	982	

業	活動指標名	単位		H23	H24	H25	H26
	績	事前(後)学習会	日	目標	12	12	12
実績				12	12	12	
業	八雲町派遣事業	日	目標	6	6	6	6
			実績	4	6	6	
業	八雲町受入事業	日	目標	5	5	5	5
			実績	5	5	5	
業	成果指標名	単位		H23	H24	H25	H26
	本市の参加児童数	人	目標	32	32	32	32
実績			32	27	23		
業	八雲町からの受入児童数	人	目標	16	16	16	16
			実績	16	16	11	

事業の自己評価	平成25年度の実施結果	事業の達成状況	平成23年度から、定員を32名に減員したが、平成25年度は男子児童8名、女子児童15名しか参加がなく、定員に達することができなかった。また、八雲町児童の参加も男子児童3名、女子児童8名と、男子が大きく定員を割る結果となったが、夏季の八雲町での民泊をなくし、交流学習事業を行うことができた。				
		事業実施における課題	年々、応募児童数が減少する傾向にある。応募方法や対象の事業内容等の見直しが必要である。また、八雲町側でも児童募集に苦慮している状況であるので、両市町で検討・協議を行い、児童が参加しやすい日程、魅力ある事業内容にする等、見直しが必要である。				
		事業を縮小・廃止したときの影響	この事業は、市で行っている唯一の児童学習交流であり、長い歴史もある。事業の廃止、縮小により、参加を希望する児童に、貴重な体験学習の場を提供できない。				
	平成26年度の改善内容	26年度における事業の改善・見直し内容(新規追加事項、廃止・削減事項等)	募集対象児童を、市内小学校の小学6年生児童(定員に満たない場合のみ、5年生を対象とする)であったものを、市内在住の小学5・6年生児童に見直した。募集方法を、小牧市教育委員会ホームページへの掲載及び対象児童へのチラシ配布のみであったものを、小牧市ホームページ、広報こまきへの掲載を追加した。学習会の日程を一部見直した。				
平成27年度の事業の方向性	方向性の判定	維持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの(対象や手段を見直す場合も含む)				
	判定理由	この事業は、市で行っている唯一の児童学習交流であるため、事業は継続する必要があるが、日程・内容等は八雲町と検討・協議が必要である。					
	27年度以降の改善案	八雲町等と協議のうえ、事業内容や交流日程の見直しを行い、参加する児童や保護者にとって、参加しやすかつ魅力ある事業とする。					

二次評価	方向性の判定	判定理由
	維持	一次評価のとおり。